

指定校番号	28076	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立江波中学校	校長	大本 司	生徒指導主事	望月 慶輔
-----	-----------	----	------	--------	-------

取組事例名 『小中部活動交流会』

取組のねらい『キーワード：小学校から中学校へのスムーズな接続』

- ・小中連携行事を通して、小学生に中学校の良い面や頑張る生徒の姿を見せることで、小学6年生の中学校入学に対する希望と安心を与えるとともに、その取組を通して、中学生に自己有用感を持たせる。
- ・小学生同士の連携、交流に中学生が関ることを通して、中学生が、児童の人間関係を把握するとともに、自主的に児童に関わろうとする資質を高める。

取組の具体的内容『キーワード：小学生をメインに』

- ・神崎小、舟入小、江波小の小学6年生が江波中で部活動体験に参加する中で、生徒が自主的に児童の活動を支援する。
- ・参加者は小学校で希望を取り、グループを振り分ける。それぞれのグループに中学生をリーダーとして据えることを想定し、どの様なことができるかを中学生が主体となって決める。
- ・教員は、中学生の活動の様子を観察し、基本的に、中学1・2年生が指導を行えるような支援に留める。また、中学生は、小学生に実際に活動をしてもらうことを重視し、児童へのサポートに徹する。

取組の課題・創意工夫『キーワード：生徒が主体となって』

- ・全体会の司会など、生徒会執行部や部長会が中心となり、中学生が運営を行った。
- ・各クラブの部長を中心に、どうすれば小学生に多くの体験をしてもらえるのか、各部でミーティングを開き、内容を考えた。また、顧問に相談し、内容の確認をもらうなど、事前に準備を進めた。
- ・多くの人数が参加する部活では、その中で更に小グループを作り、それぞれのグループに中学生が分かれてつくなど、きめ細やかな対応を心がけた。



取組の成果（効果）『キーワード：自己有用感の向上』

- ・部活動交流会の後に行ったアンケートから、95%の小学生が、中学生に教えてもらうことを喜んでいる。また中学校の雰囲気を知ることができ、安心することができたという回答も90%を越えている。
- ・中学生も、全体会の運営から、小学生の指導まで、全てを自分達で行うことで、達成感や、上級生としての自覚を深めることができた。また、部活動交流会後のアンケートから、85%の中学生が、小学生に頼られることで、自己有用感を感じているという結果だった。

今後の展開『キーワード：小学校から中学校へのスムーズな接続』

- ・2月には、中学校の教員が各小学校で出前授業を行い、中学校の授業を体験してもらう。また、生徒指導主事、教務主任が中学校の生活のルールや授業の様子について小学生に説明することで、小学生が安心して中学校に入学してもらえるような取組を続けていく。

他校へのアドバイス『キーワード：準備の大切さ』

- ・本番を中学生に任せるために、全体会を運営・進行する中学生の指導、リハーサル、部長会の指導など、事前の準備をしっかりと行ったことが、当日の成功につながった。また、小学校とも事前に連携し、希望通りの部活動に参加できるように人数調整を行ったり、身体的な配慮を要する児童の様子について、事前に打ち合わせを行うなど、小中での連携を密に行った。